

出題分析			
試験時間	90分	配点	75点
		大問数	4題
分量 (昨年比較)	[減少 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 難化]
<p><b>【概評】</b></p> <p>〈現代文〉</p> <p>例年通り評論2題の出題で、本文の分量や設問数は昨年と同程度。文学部で頻出の脱文挿入をはじめ、内容把握や空欄補充を中心としたオーソドックスな設問形式であった。(一)は本文が抽象的で難解な芸術論であり、読解に苦勞した受験生もいたと思われる。一方で(二)は具体例が多く論理展開も読み取りやすい文章であった。(二)の本文は代々木ゼミナール2025年度第1回大学入学共通テスト入試プレ第1問の本文と七割程度重なっている。</p> <p>〈古文〉</p> <p>明治天皇の後である昭憲皇太后の歌集から出題された。本文量は昨年からやや増加した。近代の文章からの出題であり、出典が明記されていないため、戸惑った受験生も多いと思われるが、設問自体は紛らわしい選択肢も少なく、取り組みやすいものであった。設問数・解答数ともに昨年から1減。</p> <p>〈漢文〉</p> <p>宋代の文章からの出題。本文量は昨年と比べて30字減ったが、それでも400字近い長文である。設問数と解答数はともに1増で、一昨年と同じである。決して読みやすい文章ではないうえに、一部の設問では紛らわしい選択肢が含まれ、高度な読解力が求められた。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文(評論) 岡本謙次郎「写実について」	対象を観念的に捉えるのではなく、眼前の事物を見たままに理解しようとする態度の重要性を論じた文章。空欄補充や脱文挿入は難度が高いが、粘り強く論理を追うことで正解にたどり着ける。空欄補充3問、内容説明2問、脱文挿入1問、理由説明1問、内容合致1問の構成。	やや難
二	現代文(評論) 渡邊雅子『論理的思考とは何か』	論理的思考は世界共通で不変のものではなく、文化や社会によって異なる論理の型があることを指摘した文章。選択肢に含まれる誤りの箇所が明確であり、解答を絞り込みやすい。脱文挿入1問、空欄補充3問、内容説明2問、内容合致1問、漢字1問の構成。	やや易

設問別講評			
三	古文（歌集） 昭憲皇太后『昭憲皇太后御集』	明治天皇の後である筆者が、秋に盛りをむかえる菊に関する出来事を、和歌を交えて記し、天皇を賛美した文章。和歌の空欄補充 1 問、傍線部解釈 1 問（枝問 2）、主体判定 1 問、和歌解釈 1 問、古典常識 1 問、内容合致 1 問の構成。	やや易
四	漢文（評論） 洪邁『容齋二筆』	顔真卿は、悪徳な権力者と対立して最期は殺されたが、忠義を貫くことで唐の中興に寄与して死後の名声を得たと論じる文章。内容説明 1 問、書き下し 1 問、理由説明 1 問、漢字の意味 1 問、抜き出し 1 問、内容合致 1 問の構成。	標準

### 合格のための学習法

#### 〈現代文〉

抽象的な文章を読みこなす高度な読解力が求められる。日頃から哲学、文学、文化、社会、芸術など多様なジャンルの評論に触れるようにしよう。また、過去問演習を通して、脱文挿入、空欄補充など、文学部で頻出する設問形式にも慣れておこう。

#### 〈古文〉

読解力については、単語・文法の知識だけでなく、和歌修辞や文学史、古典常識についても学習しておきたい。文学部は歌集や歌論、物語など出典が多岐にわたるため、予想問題などを含めて様々な出題内容に慣れ、文脈や人物関係などを正確に捉えられるよう、日頃から読解の演習を積んでおいてほしい。

#### 〈漢文〉

基礎から応用までの句法や語句、修辞表現、語法、漢詩のルールなど、読解のための知識をまんべんなく身につけておく必要がある。単なる知識の暗記に終始せず、実際の漢文の中で様々な表現に触れ、訓点が省略されていても理解できるような確かな読解力を養おう。加えて、長文をはやく正確に読む訓練も積んでおきたい。